



各 位

平成28年5月6日

会 社 名 有機合成薬品工業株式会社
代表者名 取締役社長 伊藤 和夫
(コード番号 4531 東証第一部)
問合せ先 取締役 常務執行役員 山戸 康彦
(TEL 03-3664-3980)

新中期経営計画の策定に関するお知らせ

当社は、平成29年3月期を初年度とする3ヵ年(平成28~30年度)の中期経営計画を下記のとおり策定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画基本方針

当社は、我々を取り巻く環境変化(少子高齢化、社会保障費の増大等)を捉え、これまで長年培ってきた「ものづくり」の強みを活かし、『「世界で存在感のあるファインケミカル創造企業」を目指す ~「未来志向のものづくり」に挑戦~』を基本方針に掲げました。新たなヘルスケア社会の実現に向けて、以下の二つの重点施策を推進します。

- アミノ酸事業を再生・再構築し、グローバル展開を通じ、トップシェアを維持・拡大する。
- 医薬品事業の拡大を図るため、新規医薬品設備の建設・活用により、新商品開発体制の一層の強化を図る。

2. 経営目標

前中計では、円安の進展で外部環境が好転したのに加え、東日本大震災による風評被害からの脱却、適正売価への是正、きめ細かな拡販活動が奏功し、平成28年3月期(中計最終年度)の売上高は、過去最高105億円に達する見込みです。

しかしながら、収益面については、当初目標に至らなかったため、新中期経営計画では、ヘルスケアビジネスに注力し、以下の経営課題に取り組み、収益力の向上を図り、掲げた数値目標の達成を目指します。

(1) 目標達成のための経営課題

- ①事業拡大に向けた取り組み
 - 中核事業(主力商品)の価値最大化
 - 成長領域(ヘルスケアビジネス)への投資
 - 新規医薬品設備投資を梃子に新規原薬・中間体案件の獲得
- ②将来の収益源の創出
 - グローバル競争力を備えた新商品開発体制の強化

- 内外の多種多様な才能が活躍できる組織作り(ダイバーシティへの対応)
 - 外部(官民)研究機関との協働による価値創造(オープンイノベーションの実現)
- ③経営基盤の更なる強化(企業価値の向上)
- 意識改革の徹底及び工場基盤の整備
 - M&A・業務提携等によるシナジーの創出
 - 市場・投資家等の動向・株主の意向を踏まえたコーポレートガバナンス体制の確立
 - 内部統制システムの充実による業務改善・リスク低減

(2) 数値目標

(単位：百万円)

	平成 28 年 3 月期 (予想) ※1	平成 29 年 3 月期 (初年度)	平成 30 年 3 月期 (2 年目) ※2	平成 31 年 3 月期 (最終年度)
売上高	10,576	10,700	11,200	12,500
営業利益	450	500	300	700
経常利益	460	480	280	680
当期純利益	350	310	160	420
ROA※3	2.5	2.8	1.1	3.2

- 注1. 本日同時刻に開示した「通期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参考願います。
- 注2. 中計2年目に新規医薬品設備を導入する予定です。このため、2年目は売上高(予測)に比べて減価償却費割合が増加することから、営業利益は初年度を下回る予想です。しかしながら、最終年度以降は、生産量及び売上高が増加し、業績向上に寄与するものと考えております。
- 注3. 当社は、収益性(売上高利益率)と事業の効率性(総資産回転率)の向上が企業価値を高めると考え、それらを示す指標として ROA(総資産営業利益率=売上高利益率×総資産回転率)を経営目標値としております。

(注) 本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、リスクや不確実な要素も含まれることから、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上